

## 小学校期の特性を生かした外国語教育の推進 ～「国際科」の充実を通して～

東京都港区立御田小学校 濱尾 敏恵

### I 現状と課題

#### 1 現状認識

東京都港区では、グローバル化のさらなる進展に伴い、自己や他者、自国の伝統・文化の紹介など、日常的な事柄等について英語を使って外国人とコミュニケーションを図ることができる児童の育成を目指している。

港区立小学校では、平成14年度から、国際理解教育の一環として英語活動を実施した。平成19年度からは全ての小学校において教育課程特例校として「国際科」を教科として位置付け、英語による実践的コミュニケーション能力の基礎を培うとともに、広く世界に目を向けた国際理解教育を推進し、国際人としての資質・能力の育成を目標とした。外国人講師（NT：ネイティブ・ティーチャー）を各学校に配置している。授業時数は、全学年ともに週2時間を当てている。なお、港区立中学校においては、平成18年度から、英語によるコミュニケーション能力の育成を図ることを目的とする週1時間の「英語科国際」を加え、週5時間の英語教育を実施している。

#### 2 課題分析・アプローチの視点

平成29年度に実施した6歳～11歳の児童のいる港区保護者によるアンケートでは、英語能力の向上、外国人児童の多い環境を生かすなどの国際理解教育の充実が必要であると答えた割合が、33%となっていることから、国際科等に対する期待が大きいことが分かる。今後も、国際科の効果検証を行い一層の充実を図ることが求められている。

### II 研究の概要

#### 1 国際科のカリキュラム及びテキストの改訂

##### (1) 新しいカリキュラムとテキスト

港区では、これまでも区独自のカリキュラムのもと、オリジナルのテキストを活用してきた。このたびの学習指導要領の改訂に合わせ、新しいカリキュラムとテキストについての研究を進め、平成30年度末にテキストを作成した。平成31年度以降は、このテキストと文部科学省からの新教材“Let's Try! 1・2”と“We Can! 1・2”や東京都からの副読本“Welcome to Tokyo”シリーズを併せて、第1学年で年68時間分、第2～6学年で70時間分の指導を行っていく。

##### (2) 担任が中心となって行う授業の実施

港区ではNTが国際科の全時間分に配置されているため、担任教員がNTに依存している状況も見られる。国際科の充実に向けて、担任教員が中心（T1）となって授業を行うことのできるカリキュラム及びテキストとなるように研究を進めた。

#### 2 実証授業と検証授業の実施

カリキュラム及びテキストの作成については、港区教育研究会国際科部が作業部会的な役割を果たした。作成したカリキュラムに基づいた授業を実施し、テキストの作成に寄与した。平成31年度においても、テキストに基づいた授業を実施し、テキストの検証を行っている。

#### 3 カリキュラム及びテキストの周知

全小学校から担当者が集まる「国際科担当者連絡会」や若手教員研修において、テキストを基にした研修を行い、活用法の周知に努めている。

### III 成果と課題

#### 1 成果

平成29年度全国学力・学習状況調査における「質問紙に関する調査」において、「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか。」との質問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した港区の6年児童の割合が53.6%であり、東京都（41.0%）や全国（33.6%）の割合より高い傾向にあった。

また、国際科・英語科国際について意識調査において、「外国人と英語でどンドン話し、交流したい。」の質問に、肯定的な回答をした中学校3年生の割合が、例年70%を超している。これは、国際科（平成19年度開始）・英語科国際（平成18年度開始）の学習において、外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験するとともに、外国の言葉や文化に対する理解が深まったものと考えられる。

さらに、NTが、学校に常駐していることによって、授業以外にもNTと関わり合う機会が増え、英語に親しむことにもつながっている。

#### 2 課題

2020年度からの新学習指導要領の完全実施にあたり、国際科のカリキュラムの見直しを図り、「使える英語力」をさらに身に付けられるようにするために、他教科等で児童が学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりし、知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る必要がある。さらには、中学校における指導との接続に留意し、指導計画を作成し、着実に英語の力を積み上げていくことも重要である。また、共に指導に当たるNTの活用法をさらに研究し、新学習指導要領の趣旨に則り、担任がT1となり、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る授業を展開しなければならない。

### IV 提言

今後は、教科書や港区のテキストに基づき、NTをアシスタントにして担任教員が中心となって指導を行い、評価しなければならない。そのためには、外国語教育に関わる教員の指導力の向上が急務となる。